

新潟大学人文・法・経済学部同窓会会津支部

会津支部だより (第十二号)

令和二年四月一日発行

支部長挨拶

坂内 清一

昭和50年法学部 卒



今年度の総会で支部長に選出されました。

会員の皆様のご協力をいただきまして、新潟大学人文・法・

経済学部同窓会会津支部が楽しい同窓会になるように、微力ながら精一杯務めさせていただきます。と思いますので、よろしくお願いたします。

私の学生時代のことを振り返ってみます。

私は昭和四十六年に入学しました。キャンパスが前期は西大畑、後期は五十嵐に移転となる年でしたのでアパートは前期は新潟駅前、東大通りに借りました。当時の新潟駅前は古町同様にぎわっていたので私の生まれ育ったところと違い、カルチャーショックを受けたものです。

西大畑キャンパスは校舎は古かったものの歴史を感じさせてくれる落ち着いた雰囲気でした。通学はアパートから萬代橋を渡り古町通を過ぎたところでしたのでつい寄り道をしたものです。

後期になり五十嵐キャンパスに移転しましたが、

会津支部だより
第12号
令和2年4月1日

編集発行
新潟大学
人文・法・経済学部
同窓会会津支部
(発行人) 坂内清一
(事務局)
会津若松市川原町2-26
☎ 090-2026-8442
zkravmh@bd6.so-net.ne.jp
(鈴木伸康宅)

五十嵐砂漠?の真ん中に人文学部・理学部・食堂、グランドがあるだけで周りは畑だけ、余りの環境の変化にびびくりしたものです。

アパートも後期からは五十嵐キャンパスの近くに引っ越しました。もちろん畑のど真ん中。四畳半一間で共同炊事場が一つしかなかったので二人ずつ月曜日から木曜日まで交代で夕食当番を組んで生活していました。

料金は月一人三千円。お金が無くなってくると大家さんから野菜をもらったり、授業をサポートして海で貝を採って味噌汁、バター焼きなどを作りました。月末には残ったお金で近くのドライブインで毎月飲み会です。今でも数人とお付き合いがあります。

会津高校からは同じクラスから私を含めて三人同じ学科に入学しました。クラブは三人でボート部に入りました。下所島に合宿所があり、合宿が大変多く、新入生は料理当番があり、料理の本を読みながら作りました。不味い料理を作ると皿が飛んできます。真剣に作りました。

お陰様で料理が趣味となり、今でも家族の食事を週四回くらい作っています。
学生時代：今でも良き思い出として残っています。

次回総会のご案内

新年度の総会を下記の通りご案内申し上げます。
ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時: 6月13日(土) 11:00 ~

場所: 会津迎賓館 会津若松駅前

会費: 会津支部会員 4,000円
他支部、他学部の方 5,000円(予定)

アトラクション: 現代版組踊り「息吹」

南会津町(旧館岩村)を拠点に、小中高生が沖縄源流の組踊りを現代風にアレンジ今年で結成10周年 郷土芸能の未来を拓く革新的なステージの一部をご披露いただきます。

~ NHK「鶴瓶の家族に乾杯」で紹介されました ~

現代版組踊り「息吹」で検索



令和元年度 会津支部総会

開催される

今回は、総会の内容を写真でレポートいたします。(次ページ参照)

総会の内容については、本部同窓会報「青松」にてご報告しております。
あわせてお読みください。



受付ありがとうございます



四季の新潟〜♪



森先生の講演

随想 シリーズ
新潟の思い出の地
「角田浜と灯台」

羽田 喜久馬

昭和53年経済学部卒

子供を授かってからの夏休みは、学生の時に行っていた旧巻町にある角田浜キャンプ場で海水浴とテント泊するのが常だった。子供連れで旅館に泊まれば数万円かかるが、キャンプ場であればテント一張500円で済む。当時の財政力からすれば選択肢は無かった。



角田浜は砂浜が1キロほど広がり、しかもかなり遠浅だった。テトラポットには小魚やカニが付いていて、子供達を飽かさなかった。キャンプ場は浜辺のすぐ隣のクロマツ林の中であり、林内はきれいに整備されていた。切らずに残されたクロマツが、キャンプ場内の光や風をやわらかく遮ってくれた。冷水だったがシャワーもあった。夕食時は寺泊まで車を走らせ、甘エビ等の海の幸を買い、身はカレーにアラは味噌汁のダシにした。

角田浜は砂浜が1キロほど広がり、しかもかなり遠浅だった。テトラポットには小魚やカニが付いていて、子供達を飽かさなかった。キャンプ場は浜辺のすぐ隣のクロマツ林の中であり、林内はきれいに整備されていた。切らずに残されたクロマツが、キャンプ場内の光や風をやわらかく遮ってくれた。冷水だったがシャワーもあった。夕食時は寺泊まで車を走らせ、甘エビ等の海の幸を買い、身はカレーにアラは味噌汁のダシにした。

浜の南端には白い灯台があり、そこは角田山のすそ野が海に沈みこんでいる場所だ。佐渡に一番近い本州側の地であり、佐渡に沈む夕日が望める絶景ポイントである。灯台が立つ岩山の下には小さな手掘り状のトンネルがあつて、その先が遊歩道となっている。「越後七浦シーサイドライン」と並行する波打ち際の遊歩道である。そこには、源義経が奥州平泉に逃れる際、追手を避けて船と共に身を隠した洞窟もある。佐渡弥彦米山国定公園内の見応え、遊び応えのある場所だ。

会津を朝3時に出発し、子供たちと海で遊んでテント泊をし、帰ってくるのは真夜中ということをして十数年続けた。キャンプを打ち止めたのは、磐越自動車道が全線開通した次の年の平成10年だった。よわい不惑を越え体力的に厳しかったこともあるが、会津に1時間半で帰れることが「キャンプ」という気持ちを萎えさせていた。

あれから二十年が経ち3人の子どもは自立し、それぞれに所帯を持ち孫もできた。

大学がある内野町に住む孫娘が、今年小学1年生になる。1年生になったら角田山に登る約束をした。広大な日本海と白い灯台を背に登るコースだ。角田山は山野草が豊かで、春先には色とりどりの雪割草

随想

新潟に勤務して

大堀 義之

昭和57年経済学部卒

(オオミスミソウ)の群落が見られる。新潟県は雪割草の国内最大の自生地で、花の色や形の変異の豊かさは世界的にも注目されている。また、カタクリも群生し、山の斜面が紫色の絨毯のようになる。標高は四百八十M程だが、海拔0Mから登っていくので孫娘には少し厳しいかもしれないが、晴れの日に花を眺めながらゆっくりと登ってきたいと思う。



「新潟支店勤務を命ずる」——平成二十二年六月、私が当時勤務していた銀行で受けた辞令でした。行内では仙台に次いで転勤希望が多いところです。若い頃には仙台勤務も経験しましたが、やっぱり私にとっては新潟が一番です。おまけに単身赴任だったので、妻の目が届かないのをいいことに、でも銀行員としての使命はしっかりと胸に刻みながら、丹念にそして集中的に駅前や古町周辺の景気ウオッチ、いや、居酒屋と新潟美人のママさんのお店めぐりに精を出しました。

もちろん(偉そうに言うな!)、自分にしては仕事も一生懸命やりました。簡単ではありませんでしたが、支店のみならず取引拡大や新規開拓に力を注ぎました。また、海沿いにはいいゴルフ場もたくさんあり、休日には取引先や友人と芝生の上で自然を満喫。(ウソです) 格闘していました。とにかく、

仕事も遊びも充実した新潟ライフでした。

そんななかで発生したのがあの東日本大震災でした。あまりの揺れに急いで出先から戻り、テレビで惨状を目にして言葉を失いました。家族は大丈夫か……。なかなか連絡がつかず、生きた心地がしませんでした。福島第一原発の爆発後は、福島県内に勤務していた中国人が早朝から支店の前に列をなし、預金を払い戻して中国政府が用意したチャーター機で新潟空港から帰国して行きました。また、福島県内各地から着の身着のまま避難してきた人たちが、預金払い戻しや通帳・カード再発行のために連日多数来店しました。

こうしたなか、何でも協力するから遠慮なく言ってくれと救いの手を差し伸べてくれたのが、新潟の友人や取引先の方々でした。第四銀行の常務取締役でゼミ仲間だった小原君からは真つ先に申し出があり、たくさんのお取引先も飲料水やパックライス、燃料、生活用品などを次々と福島へ送ってくれました。新潟の皆さんの温かい気持ちに触れて、本当に涙する思いでした。

三年弱の新潟勤務は、転勤辞令を受けたときのあの弾むような期待感を裏切ることがなく、銀行勤務の中でも特に記憶に残る経験となりました。

随想 古文書の縁

大越 ひかり

平成29年人文学部卒

私が新潟大学人文学部を卒業してから、まもなく丸二年が経過しようとしています。

学生時代は歴史学を専攻していましたが、現在は会津若松市役所に勤務しており、日々の業務の中で歴史に触れる事は滅多にありません。

私は日本史ゼミに在籍しており、授業の中で、度々古文書を読む課題が与えられていました。当時は原型を留めないようなミミズ字を読むことは大変苦慮し、卒業してからはもう二度と目にする機会もないだろう。：と思っていたのですが、なんと、現在私が勤務している某所の所長が大変な古文書好きで、配属して間もなく立ち上げられた「古文書読解サークル」に加入することになりました。

現在もその活動は続いており、おおよそひと月に一回、会員が各々見繕ってきた古文書を持ち寄り、解説しながら学びを深めるという活動を行っています。学業として取り組んでいた頃は大変な苦手意識があった古文書ですが、不思議なことに趣味の一環として読むと、読めた時になんとなく達成感のようなものがあります。

細々と続けている活動ですが、これがなければ新潟大学の四年間で学んだ知識は時と共にあっという間に消え去っていったであろうことを考えると、偶然のご縁で再び古文書を読む機会を作ってくださいました所長には感謝しています。会津支部の方で、もし活動に興味のある方がいらっしゃいましたら、私までご連絡ください(笑)



苦行難行の末、古文書に達観しました

随想

五感全てで茶道部の思い出

望月 麻衣

平成29年人文学部卒

新潟大学で過ごした四年間を思い返してみると、本当に充実した四年間だったと思います。念願だっ

た大学・学部に入學でき、学びたかった学問を学べたことはもちろんですが、部活動やアルバイトにも励み、一生の宝物となる友人たちに出会えたことは、私の財産となる四年間でした。

様々な経験をさせもらった四年間でしたが、特に一つ挙げるとしたら部活動は大学生活で大部分を占めていたように思います。私が所属していたのは新潟大学の中で四つある茶道部のうちのひとつ、新潟大学茶道部(石州流)でした。茶道部というとよく「帰宅部?」なんて言われる部活ですが、毎月のようにあったお茶会の前にはお点前や使う道具を覚えるために自主練習や暗記を必死でしていたことを覚えています。二年生のときに副部长という役割を与えられ、部長と一緒に部活の運営について何度も語り合ったことも忘れられません。

茶道部に所属していた中で印象に残っている言葉があります。「茶道は総合芸術だよ。五感全てでお客様をもてなすんだ。お客様をもてなす心が大事だよ。」という先生のお言葉です。お金を払ってお越しくくださったお客様に楽しんで帰ってもらうために、部員皆で試行錯誤しながら毎回お茶席を作っていました。分野は違えど、今の仕事にも少なからず活かしている言葉です。

卒業した今、以前のようにお点前をしたりお茶会に参加したりする機会は少なくなりましたが、年一回は必ず茶道部に顔を出すようにしています。先輩たちの励み姿を見て、旧友や先輩方と昔話に花を咲かせることが楽しみになっています。



おもてなしに心をこめて

近況報告

小野寺 めぐみ

平成25年医学部保健学科卒

私は大学卒業後、東京で数年助産師として働き、その後二年間の英国留学生生活を経て、昨年に故郷の会津に戻ってきました。現在は竹田総合病院で看護師として勤務しており、また休日は地元の英語カイドの勉強をさせてもらっています。私の目標は若いうちに色々な経験を積みながら修行して、年を重ねたらそれらを統合して、自分を育ててくれた社会に還していくことです。しかしながら、大学の同窓生たちが看護師一筋でキャリアを積んでいる姿は、かっこよくもありながら、それと比べていろいろな所を転々とする自分は…とふと不安になることもありました。

そんな私を支えてくれたのが、一人の恩人と一人の偉人の言葉です。私の恩人は「医療職として、人としての経験を積むことが大切。自分がしっかり自分を知る、相手を心から敬う、そして相手を想像していく事からケアが始まる。相手に寄り添った想像ができるかは経験にかかっている。」と助言して下さいました。おかげで、イギリス生活や、それぞれの仕事で多様な価値観や人の生き方に触れることができたのは、自分の財産だと気づくことができました。

また、ステイブジョブス氏も、自分の仕事を愛してやまなかったからこそ前進し続けられた、自分が愛せるものを探してごらん、とあの有名なスピーチで語っています。新しいことに挑戦する時、期待と同時に不安もありますが、それを乗り越え何かを得た時にいつも、好き・楽しいという感情がもつパワーカーの大きさを実感します。実際に医療・英語・歴史への愛に突き動かされてこまでくることができ



だ未熟者ですが、これからもどうぞよろしくお願ひ致します。

最後になりましたが、他学部の私にこのような機会を設けていただいた事に感謝申し上げます。

支部訪問記 其二

今回は秋田県支部での思い出話です。私の母の故郷は青森県の津軽です。秋田と津軽を結ぶ、ローカル線に「五能線」という線路があります。古くは、高校生時代に一度乗車し、ここ近年は、毎年必ず「五能線」を一人旅しております。そんな、趣味と実益をかね、秋田県支部の総会訪問は、昨年で3回に達しました。もうすっかり秋田県支部の皆さんとも顔なじみになってしまいました。

朝6時、西若松駅に向かい、それから磐越西線新潟へ、新潟で駅弁とビールを買って快速「きらきらうえつ」に乗り、終点酒田で途中下車、以前は、本間美術館や山居倉庫をめぐるりましたが、今は、駅隣接の土産店のイトインコーナーで読書です。2時間の待合せで普通列車で秋田へ、



日本海に沈む夕日 五能線

ました。今後も自分を支えてくれる人たちの感謝を忘れないようにしながら、挑戦を続けていきます。まだまだ

17時25分着、受付開始5分前に会場に着きます。



勇壮な立佞武多

秋田の方々も皆さん大歓迎してくださり、総勢30名ですので、ちょうど会津支部と同じくらいの人数でアットホームな感じでした。京屋支部長には、会津支部にお見えいただき、高野事務局長とは、福島県中央支部で、大久保副支部長とは、山形県支部で一緒に過ごさせていただきました。和気あいあいと過ごさせていただきました。ここでもマイクを握って「新潟大学愛してまゝす」をさせていただきます。なお、参加者対象に、抽選が行われ、本部総会への「旅行券」が授与されるのも秋田県支部の特徴です。最後に地元参加者には新潟の名産品が、我々来賓には、秋田県の特産品が土産としていただけるのもありがたいと思っております。そして、毎回二次会にお誘いいただき、秋田の郷土料理をいただきながら、楽しく語らい飲んで時を過ごさせていただきました。

翌朝は、もうひとつの目的である「五能線」往復のたびです。毎回趣向を変え、途中下車しますが、庄巻は五所川原駅から徒歩5分の「立佞武多(たちねぶた)の館」です。最大で20メートルにも達する巨大な山車を常設展示しています。1年毎に1体づつ入れ替え3体同時に展示してあります。秋田からは遠いのですが、そこは鈍行列車のたびですから、ゆったりとした気分が、青森、秋田を後にします。またお伺いしたくなる家族的な支部総会と、趣味の鉄道旅行。病み付きになってしまいます。(今回は、長野県支部訪問記です。)

(鈴木伸康 昭和59年人文学部卒)